NIE実践報告

1．タイトル：先輩の投書から学ぶ

2．学校名

高知県土佐清水市立下川口中学校

3．実践者名（代表者名）

亀谷　厚子

4．学年

第３学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳　　７名

6．単元（本時の学習課題）名

豪雨災害を乗り越えて　４－（７）愛校心

7．目標(狙い)

２００１年の高知西南豪雨災害を乗り越えた学校の歴史に学び、よりよい校風を作っていこうとする態度を育てる。

8．評価の視点

被災当時の先輩達の心情を知ることで、現在の生徒達のよりよい校風を樹立しようとする心情が深まっているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

１時間扱い

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

導入　２００１年の高知西南豪雨災害のことを思い出させる。
展開　①西南豪雨で学校の受けた被害を知る。
　　②当時の生徒会長の新聞への投書を読み、豪雨災害の学校生活への影響について考える。
　　③授業再開の喜びと感謝の気持ちを学ぶ。
　　④当時の生徒達の学校を愛する気持ちが校庭での卒業式を実現させたことを知る。
　　⑤自分達の学校での「校風の継承」について考える。
終末　他の卒業生のことや当時のことを聞き、関心をさらに高める。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

豪雨災害の被害の様子や先輩の新聞への投書内容、また校庭での卒業式の様子を知ることにより、日常の学校生活を振り返る発言が多かった。

12．成果と課題

授業を通して「校風」への意識が高まり、３学期の生徒会役員選挙でも、「学校の伝統を受け継いでほしい」「よりよい学校にしてほしい」という言葉が出ていた。候補者選びに際しても、「他の手本となる人」を基準に選出していた。卒業前という時期もあってか、学校を大切に思う意識が醸成されていると感じられる。教師自身が、学校の歴史、以前の生徒の姿を知ることも指導の上で重要なことであると強く感じた。